

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3691900017		
法人名	医療法人 守章会		
事業所名	グループホームリリーハウス		
所在地	徳島県三好郡東みよし町中庄538-1		
自己評価作成日	平成29年9月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成29年10月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

風光明媚な立地であり、吉野川に近く、自然豊かである。ユニバーサルデザイン適合証交付を受け、安全で安心し、快適に利用できる施設である。法人の運営する医療機関と連携を図り、24時間体制である。個々の生活スタイルを尊重しレクリエーションやいろいろな行事への参加は無理強いせず、本人の気持ちを大切にしています。自分の趣味を居家で楽しんだり、日常的に散歩を日課としている方もおります。施設の中庭ではいろいろな季節の野菜や花を作っており、作る楽しみ、収穫の喜びを入居者、職員で共有しています。スタッフ一人ひとりが高い志をもち、利用者中心の介護をしている。利用者のできること、したい事に着目してその人らしさを引き出せるような関わりを持ち支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、医療法人が運営する事業所や協力医療機関、教育機関等の立地する環境に位置している。また、吉野川のほとりの自然豊かな場所であることから、利用者と職員は、近隣の散歩や季節の花見に出かけており、地域の住民と挨拶を交わしたり、話しをしたりしている。地域の認知症カフェや老人クラブの体育祭にも出かけている。職員は、ケアの中で一人ひとりの意向や希望を把握し、できるだけ日常的な外出ができるようにしている。管理者が中心となって、地域密着型サービスの意義をふまえた理念の実現に向けて、安全対策委員会や行事委員会、メンテナンス委員会、レク委員会等を設置し、事業所の取り組みや課題の明確化に努めている。出された意見や課題は、担当職員が中心となって、職員間で情報の共有を図り、話し合うなどして運営面に反映させている。全職員は、日頃のケアの中での“気づき”を各委員会のノートに記載するなどしており、ヒヤリハット収集や業務の改善にもつなげている。利用者がゆったりとのびのび生活をする事ができるような居心地の良い環境づくりやサービスの向上に取り組み、地域に根ざした事業所となるよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			南ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ホールに理念を掲示して、いつでも見えるようにしている。毎朝の朝礼時に職員全員で唱和をしている。	事業所では、地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念を掲げている。管理者は、職員採用の際に、理念について話しをするようにしている。管理者と職員は、日々のケアの中で、理念を共有し、振り返るなどしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の老人会主催の運動会、夏祭り、認知症カフェ等の行事に参加したり、近隣のスーパーに買い物に出かけたりして地域との交流を持っている。	事業所では、近隣に散歩に出かけたり、地域の行事に積極的に参加したりしている。利用者職員は、地域包括支援センター主催の認知症カフェにも出かけており、地域の住民と挨拶や会話を交わし交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設してから4年目になり、地域にも認知されてきたと思う。外出などで地域の方と触れ合うことで、認知症の方の理解を深めて頂くよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催しており、地域住民の代表、町の職員、他事業所からの出席があり、事業所の現状を報告したり、意見交換を行い、頂いた意見などを参考に質の向上に繋げています。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議には、利用者や家族の出席者を得ている。事業所の取り組みや現状を報告し、意見交換を行っているが、サービス向上に向けた、具体的な内容や事例について助言を得るまでには至っていない。	運営推進会議は、報告や情報交換にとどまらず、事例や具体的な課題について話し合う機会とされたい。事業所が、地域の方々と密に連携を図り、質の向上に向けた助言やアイデアを得る機会とできるよう工夫されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の時などに事業所の実情や自治体の実情などについて意見交換を行い、支援の取り組みに生かしている。	管理者は、町担当窓口に出向くなどして、事業所の実情等を伝えている。また、地域包括支援センターと情報の共有もしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロ」の手引きを用いて施設内研修を実施し、身体拘束について話し合いを行い、拘束をしない介護に取り組んでいいます。	事業所では、職員が身体拘束の弊害や内容について理解することができるよう、研修の機会を設けている。職員間で、ケアを振り返り、支援に努めている。全職員は、身体拘束の弊害を理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待マニュアル等で「虐待は絶対にあってはならない事」を周知徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			南ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援を利用されていた利用者様や、成年後見制度を利用されている利用者様もおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には必ず、重要事項の説明を十分に行い同意を得ている。疑問点などがあれば詳しく説明を行い納得して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時に意見を聞いたり、意見箱を設置し、家族や利用者様の意見を聞ける環境を作っている。	事業所では意見箱を設置しているが、現在投函はない。管理者や職員は、家族の来訪時に積極的に話を聞くようにしている。職員間で話し合い、利用者や家族が意向を表出しやすい雰囲気づくりを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の送りや、月に1回の全体ミーティングで、意見交換を行い情報の共有を図り、運営に反映させている。	管理者は、朝礼や職員会議の機会に、職員の率直な意見や提案に耳を傾けている。出された、意見やアイデアは、運営面に反映させており、職員の働く意欲の向上につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者、管理者は職員がやりがいのある働きやすい状態にするため、人事について、配属に気をつけている。また資格手当を設けるなどして、各自が向上心を持って働ける様にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加機会の確保、支援体制ができています。外部の研修は、情報を職員に伝え参加を働きかけている。参加者には、研修報告書を義務付けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加してグループワーク等で意見交換を行い、交流を図っている。近隣のグループホームとは運営推進会議にお互いに参加しあい意見の交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			南ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所相談を受けると、入所前の面談時から、ご本人やご家族の話を十分傾聴しスムーズな入所に向けて信頼関係を築くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にゆっくりお話を伺う機会を持ち、ご家族の状況や意向をお聞きするように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の身体状況や精神状況に加え、家族の介護負担も考え、ご本人とご家族にとってより良い支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の残存能力に応じて自分で出来ることはして頂き、出来ない所を職員が支援する。買い物は月に1回は利用者様と一緒に行き、好きな物を買って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様来訪時に情報交換や意見交換を行い、よりよいケアに繋げ、また2カ月に1回利用者様の生活の様子がわかる写真入りの新聞を送り近況をお知らせしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や馴染みの方が、いつでも訪ねて来て頂けるような雰囲気作りを大切にしている。ゆっくりと共に時間が過ごせる様に居室に案内し、お茶などを用意している。	事業所では、利用者がこれまで培ってきた人間関係や地域社会との関係性の把握に努めている。職員は、利用者が馴染みの店や理・美容院に出かけたり、電話や手紙で友人や知人、家族と連絡をとったりできるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室で過ごすことが多いが、おやつ・レクレーションの時間はホールに来られテレビ観賞をされたり、若い頃の話など楽しく会話されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			南ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中にはお見舞いに行き、様子をお伺いしている。またご家族からの相談を受け助言したりと支援を心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向を尊重しご希望に沿ったケアをしている。意思疎通が出来ない方にはご家族に情報収集をしている。	職員は、日頃の利用者との関わりの中で希望や意向の把握に努めている。意思の表出が困難な場合でも、利用者のつぶやきや表情の変化から意向をくみとり、一人ひとりがその人らしい暮らしを送ることができるよう本人本意に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりのこれまでの生活歴や馴染みの暮らし方、家族構成、服薬状況、既往歴、入居に至るまでの経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ないことばかりでなく、出来ることに目を向けるよう努めている。朝・夕に申し送りを行い、職員が情報を共有把握できるようにしている。職員一人ひとりに居室担当制にして責任を持ってもらうようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向を聞き、安全にまたその人らしく生活することができるよう、職員で話し合いをしながら介護計画を作成している。	事業所では、利用者や家族の意向等を聞いたうえで介護計画を作成している。また、職員間で話し合い、気づきやアイデアを出し合っている。利用者の心身状態に応じて、介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別ケース記録に記入し、出勤時には申し送りノートやケース記録に必ず目を通してから業務につくよう徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて、買い物や通院等必要な支援を提供し、ご本人やご家族が満足して頂けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			南ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の老人会主催の運動会、夏祭り、認知症カフェ等の行事に参加している。運営推進会議の時に地域の行事などの情報を提供して頂き支援に繋げている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医に継続して受診している方もおられ、都合により通院に付き添えない場合は、職員が付き添い説明を受け家族に報告している。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。事業所では、かかりつけ医や協力医療機関等と連携を図っている。家族の協力を得るなどして、専門科の受診ができるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護があり、その都度日頃の様子を報告し、看護師にアドバイスをもらったり、必要に応じて受診を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供を行い病院との医療連携をしている。また入院時病院関係者と情報交換をしたり、利用者様と会話をする事で安心してくださるよう心掛けています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状の進行具合により、関係医療機関との連携と、ご本人とご家族に重度化した場合の対応をお聞きしている。	契約時の段階で、利用者や家族に重度化した場合や終末期の事業所の方針等を説明している。利用者の心身状況の変化に応じて、本人や家族の意向を再確認している。関係者間で、話し合うなどして対応方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応については月1回の職員会議で話し合い情報の共有はできている。職員が慌てず対応できるように事務所内にも掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災、地震、水害が発生したと想定し避難訓練を実施している。また保安協会、消防署員の参加もあり、訓練用消火器を使用した訓練も実施している。	年2回、事業所では、消防署や保安協会の協力を得て、日中と夜間を想定した避難訓練を実施している。防災対応マニュアルも作成している。	今後も、地域との協力体制の構築に向けた継続的な取り組みに期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			南ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室へ入る際にはひと声かけるか、ノックをしてから入るようにしている。排泄の場面では、自尊心を傷つけないような声掛けの工夫をしている。	日頃から、職員は利用者一人ひとりに寄り添って接している。特に、排泄や入浴などの支援の際には、プライバシーに配慮し、さりげない声かけを行うなどのケアを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望など話して下さる利用者様が半数ほどおられる。思うように伝えることができない方には居室などで傾聴を試みたり、表情などを観察し自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室でテレビを観られたり、休まれたりそれぞれが望まれる過ごし方を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や入浴時ご本人に選んでいただいている。準備ができない利用者様には、どのような衣類が良いのか尋ねながら準備をしている。散髪は姪の方がして下さる人もおられ、散髪をととも楽しみにされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の形態は個人に合わせて提供している。中庭で収穫した野菜で味噌汁や副菜を提供している。食事の配膳や後片付けは、利用者様と一緒にやっている。	朝食は、事業所内で調理をするようにしている。利用者と職員は、中庭の菜園でネギや茄子など季節の野菜を育てており、献立に取り入れている。食事は自分で食べることができるよう配慮し、職員は同じテーブルを囲んでともに食事をとっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分量は細かくチェックし、介護記録に記載して把握している。摂取量が不十分な利用者様には栄養補助食品を利用したり、食事携帯を変えてみたりして摂取できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。困難な利用者様は介助にて行っている。義歯については毎日夕食後に外し、ポリドントにつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			南ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は出来るだけトイレ誘導を行いトイレで排泄が行えるよう支援している。中にはポータブルトイレへの強いこだわりがある方もおられ、一人ひとりに合った対応を行っている。	事業所では、利用者一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。職員は、排泄の自立に向け、プライドを損ねないよう、さりげない声かけやトイレへの誘導を心がけている。トイレの場所がわかりやすいよう掲示などにも工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘薬服用を減らす努力を行っている。牛乳・ヨーグルト等の乳製品をおやつに出したり、腹部マッサージ、体操、散歩などに取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回入浴されている。入浴時には身体に変化がないか確認を行い、早期発見に努めている。また一人ひとりがゆっくり楽しみながら入浴できるように支援している。	事業所では、ユニバーサルデザインを取り入れた一般浴と特浴を整備しており、利用者の心身状況に配慮して、本人が安心感をもって入浴できるよう支援している。職員は、一人ひとりの、好みのソープやシャンプーを使用できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢の方が多く、居室で休まれたり、新聞を読まれたりとご自分の時間を大切にされている。昼夜逆転しないように時折訪室し体を動かす工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに副作用・用量等を綴じており、職員が確認できる対応をしている。新しく処方された場合は記録し職員間で周知・把握を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、畳み等楽しく会話をしながら作業をされている。また職員と買い物に行くときにはお菓子・飲み物を選んでいただくなど楽しみとなるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩をして気分転換をされたり、花見など季節の行事で外出されている。1ヶ月に1度認知症カフェに行かれ楽しく過ごされている。また家族の付き添いで受診に行かれるときには、食事・買い物・帰宅をされている。	日頃から、利用者と職員で散歩に出かけている。車椅子を利用している利用者も外出できるよう支援している。季節の行事見学や花見、喫茶店に出かけている。家族の協力も得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			南ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金として預かっており、買い物支援の時には、好きな物を購入し支払いをされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている利用者様もおられ、ご本人様の希望により職員が電話を掛ける介助をしている。手紙や宅配の荷物は届いたらご本人様に渡し、希望により読むなどの介助もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間には、行事の写真を貼ったり、季節を感じられるような飾りつけをしている。	共有空間は明るく、清潔な環境を保っている。廊下やフロアには、ソファを設置するなどしている。日当たりが良く、利用者同士の語らいの場となっており、居心地良く過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、廊下のソファで気の合った同士で楽しく会話をされたり、景色を見たり自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	年に1~2度家族が泊まりに来られた時、日常生活がわかるよう写真、工作、アルバムなどを飾っている。本人が見えやすい位置に貼る工夫をしている。	事業所では、利用者が使い慣れた家具や写真などを居室に持ち込んでもらっている。利用者一人ひとりの好みや生活習慣に配慮した環境を提供し、安心して生活することができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレの位置は把握されており混雑はないが、今後把握できない状態になった折には、貼り紙をする等対応を考えていく必要があると思われる。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			北ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ホールに理念を掲示して、いつでも見えるようにしている。毎朝の朝礼時に職員全員で唱和をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の老人会主催の運動会、夏祭り、認知症カフェ等の行事に参加したり、近隣のスーパーに買い物に出かけたりして地域との交流を持っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設してから4年目になり、地域にも認知されてきたと思う。外出などで地域の方と触れ合うことで、認知症の方の理解を深めて頂くよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回運営推進会議を開催しており、地域住民の代表、町の職員、他事業所からの出席があり、事業所の現状を報告したり、意見交換を行い、頂いた意見を参考に質の向上に繋げています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の時などに事業所の実情や自治体の実情などについて意見交換を行い、支援の取り組みに生かしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロ」の手引きを用いて施設内研修を実施し、身体拘束について話し合いを行い、拘束をしない介護に取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待マニュアル等で「虐待は絶対にあってはならない事」を周知徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			北ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援を利用されていた利用者様や、成年後見制度を利用されている利用者様もおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には必ず、重要事項の説明を十分に行い同意を得ている。疑問点などがあれば詳しく説明を行い納得して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時に意見を聞いたり、意見箱を設置し、家族や利用者様の意見を聞ける環境を作っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の送りや、月に1回の全体ミーティングで、意見交換を行い情報の共有を図り、運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者、管理者は職員がやりがいのある働きやすい状態にするため、人事について、配属に気をつけている。また資格手当を設けるなどして、各自が向上心を持って働ける様にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加機会の確保、支援体制ができています。外部の研修は、情報を職員に伝え参加を働きかけている。参加者には、研修報告書を義務付けしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加してグループワーク等で意見交換を行い、交流を図っている。近隣のグループホームとは運営推進会議にお互いに参加しあい意見の交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			北ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所相談を受けると、入所前の面談時から、ご本人やご家族の話を十分傾聴しスムーズな入所に向けて信頼関係を築くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にゆっくりお話を伺う機会を持ち、ご家族の状況や意向をお聞きするように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の身体状況や精神状況に加え、家族の介護負担も考え、ご本人とご家族にとってより良い支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の残存能力に応じて自分で出来ることはして頂き、出来ない所を職員が支援する。買い物は月に1回は利用者様と一緒に行き、好きな物を買って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様来訪時に情報交換や意見交換を行い、よりよいケアに繋げ、また2カ月に1回利用者様の生活の様子がわかる写真入りの新聞を送り近況をお知らせしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や馴染みの方が、いつでも訪ねて来て頂けるような雰囲気作りを大切にしている。ゆっくりと共に時間が過ごせる様に居室に案内し、お茶などを用意している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は殆どホールで過ごされているのでレクリエーションや体操をしたり、テレビを観て過ごしていただいている。気候の良い季節には外へ散歩に出かけたり楽しく過ごされている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			北ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中にはお見舞いに行き、様子をお伺いしている。またご家族からの相談を受け助言したりと支援を心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向を尊重しご希望に沿ったケアをしている。意思疎通が出来ない方にはご家族に情報収集をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりのこれまでの生活歴や馴染みの暮らし方、家族構成、服薬状況、既往歴、入居に至るまでの経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ないことばかりでなく、出来ることに目を向けるよう努めている。朝・夕に申し送りをを行い、職員が情報を共有把握できるようにしている。職員一人ひとりに居室担当制にして責任を持ってもらうようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向を聞き、安全にまたその人らしく生活することができるよう、職員で話し合いをしながら介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別ケース記録に記入し、出勤時には申し送りノートやケース記録に必ず目を通してから業務につくよう徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて、買い物や通院等必要な支援を提供し、ご本人やご家族が満足して頂けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			北ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の老人会主催の運動会、夏祭り、認知症カフェ等の行事に参加している。運営推進会議の時に地域の行事などの情報を提供して頂き支援に繋げている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に継続して受診している方もおり、必要に応じて希望の病院受診を行える体制をとっており、状態やご家族の都合により職員が受診に同行している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師の訪問があり利用者様の健康チェックと状態把握を行っている。介護職員は利用者様の状態の変化や日頃の状態を看護師に報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供や入院中の情報交換を行い、家族の不安にも応えられるよう、医療機関との連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状の進行具合により、関係医療機関との連携と、ご本人とご家族に重度化した場合の対応をお聞きしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間の状態悪化時の対応を事業所内に掲示しており、日中もそれに準じた対応をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力を得て、避難誘導を行えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	北ユニット	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室へ入る際にはひと声かけるか、ノックをしてから入るようにしている。排泄の場面では、自尊心を傷つけないような声掛けの工夫をしている。					
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何気ないしぐさや、相手の言葉が引き出せるよう会話し、言葉では意思表示が思うようにできない方に対しては、表情や反応を観察し、自己決定を支援している。					
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	柔軟な対応で、利用者様のペースに沿うよう心掛けている。					
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や入浴時の衣類選びを、ご自分で出来る利用者様は行ってもらっている。2か月に1回訪問美容に来ていただいて、希望される利用者様の散髪を行っている。ご家族と馴染みの美容院へ行かれる方もいる。					
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の形態は個人に合わせて提供している。中庭で収穫した野菜で味噌汁や副菜を提供している。食事の配膳や後片付けは、利用者様と一緒にやっている。					
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分量は細かくチェックし、介護記録に記載して把握している。摂取量が不十分な利用者様には栄養補助食品を利用したり、食事携帯を変えてみたりして摂取できるようにしている。					
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。困難な利用者様は介助にて行っている。義歯については毎日夕食後に外し、ポリドントにつけている。					

自己	外部	項目	自己評価	北ユニット	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている		排泄は出来る限りトイレで行えるように支援している。紙オムツを使用している利用者様に対しては、日中・夜間の紙オムツの種類も個々に応じて使い分けを行い、適宜交換をしている。				
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる		なるべく下剤を使わないで排便ができるように、10時のお茶の時間にはヨーグルトや牛乳を提供している。また、水分量の確保やラジオ体操や散歩で体を動かす機会を多くして便秘予防に取り組んでいます。				
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている		入浴は週2回を予定しており、個々の状況に応じて、ゆっくりと入浴が楽しめるように支援している。コミュニケーションを図り身体の変化などにも気を配っている。				
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している		利用者様は殆どの方が日中はホールで過ごされているが、一部の方は食後ご自分で居室に帰られて休まれている。				
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている		薬の内容は各自のファイルに綴じ、職員がいつでも確認できるようにしています。新しく処方がある時は必ず申し送っている。				
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている		洗濯物を干したり畳んだり、食事の配膳をしたり、食器を洗ったり、利用者一人ひとりにあった役割をして頂いている。				
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している		日常的に散歩に出て気分転換を図ったり、季節ごとの行事で、花見・鯉のぼり見学、あじさい見学などで出かけたり、月に一度の買い物や、認知症カフェに参加している。				

自己	外部	項目	自己評価	北ユニット	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族から預り金としてお金を預かっており、月に一度の買い物時には利用者様ご自身で支払いをして頂いている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様のご希望に応じて電話を掛ける手伝いをしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間には、利用者様の写真を貼ったり、季節ごとの飾りつけをして和める雰囲気づくりを工夫している。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下にソファを置き自由に過ごせる空間がある。廊下で歩行練習の途中でソファに腰かけて休んだり、気の合う利用者同士で座り話をされている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けのベッドやタンスに加え、馴染みのものをご持参して頂くように依頼しているが、持ち込まれている利用者様はあまり居られない。家族やご本人の写真や、利用者様が書かれた塗り絵などを貼って落ちついて過ごせる様に工夫している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所がわかりにくくなっているご利用者様に対しては、居室にわかりやすく表札を付けたり、トイレには「便所」と大きく書いて混乱しないように配慮している。			